SFRR Japan
NEWSLETTER
January 1, 2011

Top News!　ご挨拶

新理事長挨拶～2011年　春～

謹んで初春のお喜びを申し上げます。

この度私は吉川敏一前理事長の後を受け、日本酸化ストレス学会の理事長に就任いたしました。去る2007年6月、「日本酸化ストレス学会」が発足してから4年、吉川理事長の下で輝かしい成果を挙げてまいりましたが、それを踏襲し、引き続き本学会の前進に貢献したいと思う所存であります。
本学会も大過なく新年を迎えられたことは、ひとえに会員各位の日頃よりの種々のご協力、ご尽力の賜物であると心より感謝いたしております。
本学会への登録会員数も現在800名を超え、大変順調に組織化が進んでおり、各会員の酸化ストレス学研究への関心の深さを頼もしく感じておりますが、更に一層会員の増強をはかりたく会員各位にお願いする次第です。
今後の本学会の益々の発展のためには、関係各位の更なるご協力を重ねてお願い申し上げます。新しい発想とそこから生み出される柔軟な考えが研究の更なる発展につながるものと考えております。
一方、前理事長からの指摘もありますが、本学会のOfficial Journal である、"Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition (JCBN)" および国際上部組織であるSFRR AsiaのOfficial Journalである"Free Radical Research"は昨年インパクトファクターが顕著に上昇しましたことは会員各位のご協力の賜物と深謝いたしております。更に一層の上昇を目指すうえで、会員各位が国際的な視野を広げ、これらJournalに多くの投稿を期待しております。
以上が、新年を迎えるにあたっての私の思いであります。最後になりましたが、本年も会員各位におかれましては健康と安全に充分留意され、元気に、明るく、ご活躍下さることを願っております。

日本酸化ストレス学会
理事長　小澤　俊彦

初春のお喜びを申し上げます。

去る2007年6月、「日本酸化ストレス学会」発足時に理事長の任を受けてから約3年半がたちました。その中で2つの学会をひとつにまとめるという過渡期を越え、新理事長である小澤俊彦先生にバトンを手渡したわけでありますが、ひとまずは大過なく新年をむかえられたこと、ひとえに会員各位の日頃よりの種々ご協力、ご尽力の賜物であると心より感謝しております。
　毎年末「今年の漢字」が清水寺で発表されます。昨年は「暑」でしたが、本会ではさしずめ「熱」という漢字が当てはまるような気がいたします。昨年末には登録会員数が879名と大変順調に増加したこと、本学会のOfficial Journalである、"Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition(JCBN)"のインパクトファクターが1.672と著しく上昇したことなど、「熱い」一年でありました。それに加え、JCBNに対し科学研究費補助金（研究成果公開促進費）が獲得出来たことは非常に「熱い」出来事のひとつでした。これらもひとえに会員各位の酸化ストレス学研究への「熱い」想いの結果であると嬉しく感じております。常に「活力に溢れ、革新を生み出す」学会であるために、過去の経験に縛られない柔軟な発想と大胆な行動が、今後とも重要であろうかと考えております。その為には元気な若い力が不可欠であるとともに熟練した先達者のサポートが必須であります。
私自身は理事長を退任いたしましたが微力ながら理事の1人として本会を盛り上げていければと思っております。今後の益々の発展のため、小澤俊彦先生のもと関係各位のご協力を重ねてお願い申し上げます。
以上が、新年を迎えるにあたっての私の思いです。
最後になりましたが、本年も健康と安全に充分に留意され、元気に、明るく、ご活躍下さることを願っております。

日本酸化ストレス学会
前理事長（2007-2010）
吉川　敏一

◇◇◇　年次学術集会案内　◇◇◇

第64回日本酸化ストレス学会学術集会
日　時：平成23年6月9日（木）～10日（金）
場　所：戦災復興記念館（仙台市青葉区大町2丁目12-1）
会　長：河野雅弘（東北大学　教授）
ホームページ：http://118.23.94.204/sfrrj64/sendai/

開催にあたっての御案内

このたび、杜の都、仙台で第64回酸化ストレス学会を開催することになり、担当会長として大変光栄に存じます。本学会が酸化ストレス学会と名称変更されて、第4回目の学術集会ですが、酸化ストレスという言葉が幅広く認知されるようになり、年々、参加者のも増加し、盛況かつ注目される学会に変貌しております。
本会を開催するに当たり、会員の皆様、ご協賛企業の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。
酸化ストレスの制御（生体内における酸化還元平衡を保つ）は、人を初めとする好気性生物にとって、最も大切な機能です。人類は120歳を長寿限界として繁栄しておりますが、遺伝子解析の進展により後天的な環境因子である生活環境や生活習慣に伴う酸化ストレスが種の寿命に関係することが明らかにされつつあります。人類にとって永遠の命題である不老長寿。特に、健康寿命の延伸は高齢化社会の日本では不可欠で、解題解決には生活習慣病といわれる肥満や動脈硬化、高血圧、糖尿病など多くの疾患を克服することが必要です。すでに、脳梗塞や心筋梗塞、がん、肺炎など各種疾患の原因が酸化ストレスであることは、過去32年の本学会の活動で明らかにされておりますが、さらなる進展を遂げるには、基礎と臨床の融合、医学、薬学、農学、工学、生化学などの分野における学際領域研究が求められ、さらには、産学官の連携が不可欠です。また、ゲノム、プロテオーム、メタボロームなどの解析手法が飛躍的な発展を遂げていますが、酸化ストレスを惹起する活性酸素や活性窒素の計測技術のさらなる発展が望まれています。
本学会により、産学官による連携により酸化ストレス学を究める研究者達が議論を行い、得られた研究成果を共有し、さらにその成果を臨床に応用し今後の医学の発展のために努めたく、また、医薬業界はもとより食品業界、工業業界も大いに本学会を活用していただきたく存じ上げます。会員の皆様には万事繰り合わせのうえ、ご参加いただきますようご案内申し上げます。

(河野雅弘　東北大学教授)

～ 2010年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

第63回学術集会（2010年6月 横浜開催）において、選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・評議員会の承認の下、下記5名の受賞が決定いたしました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。

「2010年度 学会賞 を受賞して」

末松 誠
慶應義塾大学医学部医化学教室 教授
JST ERATO 末松ガスバイオロジープロジェクト研究統括

この度は日本酸化ストレス学会の学会賞をいただき誠にありがとうございました。審査をしていただいた学会の先生方に謹んで深甚なる感謝を申し上げます。小学校の頃から宇宙に興味を持ち、彗星のガスが生命の源を作ったというCarl Seganの“Comet”という本を読んでから、ガス分子の医生物学の研究をしてみたいと思うようになりました。1987年に化学発光を顕微鏡を介して単一光子検出増倍管をカメラにして、好中球が細菌を貪食する際に放出される活性酸素を画像化、さらに1992年には肝臓虚血の際に起こる中心静脈壊死の原因が、低酸素領域と酸素化領域の境界に生じるmidzonal oxidative stressを引き金に下流へ細胞死が進展して完成されることを世界で初めて画像化して証明したのが内科医としての研究歴の始まりでした。

基礎の医化学に移籍してからはヘムを酸素添加反応により分解する酵素であるheme oxygenaseから生成されるガスである一酸化炭素（CO）の生物作用と受容体探索の研究を一貫して進めてきました。1995年にはCOが伊東細胞にある可溶性guanylate cyclaseのmodestな活性化により類洞血管が弛緩し、ヘムの解毒に際して副生成物が血流を担保する精妙な制御が行われていること、2001年にはストレスで誘導されるCOが血流増加やcGMPに依存しない胆汁分泌促進作用を有すること、さらに2009年には肝細胞に豊富に存在するcystathionine beta-synthaseがCOにより阻害され、内因性硫化水素（H2S）を抑制することによって重炭酸イオンの豊富な胆汁分泌が促進することを見いだしました。

ガス分子は金属中心を有する補欠分子を持った蛋白質に配位する性質があります。したがってそのような標的蛋白質は酵素が多くの場合含まれ、しかもその金属中心は正常、病態でレドックスのバランスが異なります。今後ガス分子は多くの新しい受容システムの発見がなされる新しい領域となることは間違いありません。代謝システム制御を詳細に読み取る技術革新は、メタボローム解析にとどまらず、「2次元のメタボローム解析」である質量顕微鏡の応用や、代謝酵素以外の標的を探索できるナノビーズ技術の活用によっても開拓が可能になりました。今回の受賞をきっかけにぜひ多くの若手研究者に興味を持っていただけるように、Gas Biologyの領域を開拓していきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

「2010年 学術賞を受賞して」

李 昌一

神奈川歯科大学生体管理医学講座
薬理学分野・ESR研究室

この度は栄えある日本酸化ストレス学会学術賞を頂きまして謹んで御礼申し上げます。

私の酸化ストレス研究は、本学会の前身でもある日本フリーラジカル学会と磁気共鳴医学会において知り合うことができました現理事長の吉川敏一先生、副理事長の小澤俊彦先生をはじめとする本学会の多数の先生方の過分なご指導に恵まれたおかげで、これまで続けてこれたと思っています。確かに、研究の醍醐味は新しい科学的知見を見出すことでありますが、研究を通じて知り合えた人と人との出会いはまさにその人の研究人生に深く影響するものだと思います。私はこの学会で知り合えた先生方と現在私を支えてくれる教室のスタッフのおかげで研究だけではなく、これまでの人生における困難も乗り越えられたと感謝する心で一杯であります。今後はこの賞を頂きましたことを糧と致しまして、専門であります電子スピン共鳴(ESR)の生物医学応用研究を教室員達と進め、念願であるESRの臨床応用、とくにまだ酸化ストレス研究の少ない歯科医学領域で実現できるよう精進するつもりであります。また、私を育ててくれました本学会に恩返しのつもりで本学会の発展と、本学会において最も重要である若手酸化ストレス研究者の育成に微力ながらお手伝いできればと思っておりますので、今後とも理事、評議員ならびに会員の先生方のご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

「2009年学術奨励賞 を受賞して」

石原 康宏
（徳島文理大学 香川薬学部 薬理学講座）

この度は、歴史ある日本酸化ストレス学会より学術奨励賞を頂き、大変光栄に存じます。日本酸化ストレス学会理事長 吉川敏一先生、第63回日本酸化ストレス学会学術集会会長 小澤俊彦先生、常日頃よりご指導頂いております嶋本典夫先生をはじめ、関連の先生方に深く感謝致します。私が酸化ストレス研究を開始して10年が経過しました。この間、酸化ストレス分野は目覚しい発展を遂げて参りましたが、まだまだ発展途上であり、思わぬ発見によるスリルと達成感を与えてくれる魅力的な分野であると思います。これからも、本受賞に恥じぬよう謙虚な気持ちで研究に邁進し、また、私なりに、酸化ストレスの世界に彩りを添えて、酸化ストレス学の発展に尽力致します。今後とも変わらぬご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

都築 毅
（東北大学大学院農学研究科・生体分子機能学分野）

この度学術奨励賞を頂き、選考に関わった多くの先生方に厚く御礼申し上げます。
私は、酸化ストレス学会の前身である日本過酸化脂質・フリーラジカル学会に所属していた時に、酸化ストレスを勉強する目的で何回か参加いたしました。その時は発表できるような内容はありませんでしたが、その後少しずつ研究を重ね今回発表することが出来ました。まず、発表に対するフロアのレスポンスの良さに驚かされ、さらに他の発表者の受け答えのレベルの高さにも驚かされ、いろいろな面で勉強になりました。今後もこの受賞を励みに研究を重ね、面白い結果を出して、発表したいと思います。
最後に、この研究を遂行するにあたりご助力頂いた先生方、学生の皆様に深謝いたします。

山田 健一
（九州大学大学院薬学研究院・機能分子解析学）

今回、日本酸化ストレス学会・研究奨励賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に感じております。また、同時に本受賞に恥じないようにと改めて身の引き締まる思いをしております。また、酸化ストレス研究について基礎からご指導を賜りました内海先生には、この場をお借りして感謝申し上げます。
酸化ストレス研究は、医学・農学・工学・薬学といった様々な分野からアプローチされ、その疾患メカニズム解明がなされております。私は、薬学部に所属する立場から、学生時代には、小動物におけるフリーラジカルの無侵襲解析を行っておりました。また、現在では、レドックス反応を検出するプローブであるニトロキシルラジカルの合成展開、ならびに酸化ストレス研究への応用について研究を行っております。我々の研究が、酸化ストレス疾患のメカニズム解明に少しでも寄与出来るよう、今後とも努力していきたいと思います。引き続きご指導のほど、よろしくお願いします。

関連学会におけるYoung Investigator Award 受賞者

日本酸化ストレス学会では、各SFRR Societyとの連携をとりつつ、若手研究者への奨励を積極的に行っております。その活動の一環として、関連学会における演題発表の中より、特に優秀と認めた若手研究者に対して、Young Investigator Awardを授与し、今後の益々の活躍を奨励しております。今年度の主な関連学会での受賞者は以下の通りです。受賞者の益々のご活躍を期待しております。

15th SFRR International

2010年11月17日～21日、フロリダ オーランド（USA）にて開催されました第15回国際フリーラジカル学会（SFRR International)において、次の5名がYIAを受賞されました。

◇◇◇ 各賞受賞について ◇◇◇

岡崎 泰昌
（名古屋大学大学院　医学系研究科
（生体反応病理学））

このたびは、栄えある日本酸化ストレス学会Young Investigator Award を頂き、大変光栄に存じております。日本酸化ストレス学会理事長　吉川敏一先生、並びに関係の諸先生方に御礼申し上げます。私は平成13年に岡山大学を卒業後、岡田茂名誉教授が主宰されておりました第一病理学教室に入局後、鉄代謝と酸化ストレス・化学発がんに関する研究を続けさせていただいております。今回、私が受賞させていただいた研究発表は、‘microRNA 199/214 は、鉄誘発高悪性度ラット腹膜中皮腫の特徴である’です。悪性中皮腫は、現在でも予後不良な疾患であるだけでなく、今後も患者数の増加が推測されている疾患であり、分子機構の解明に基づく、新しい治療法の開発が望まれている疾患です。今後も、この受賞を励みに、酸化ストレスと疾病の研究に邁進し、会員の皆様を始めとする多分野の研究者の方々に注目していただける研究成果を発信できるように、微力ながらも、努力いたしたいと思います。引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。
また、今回の受賞の栄誉に浴することは、ご指導を賜っている豊國伸哉教授を始め、研究室の諸先生方のご助力なしには成し得なかった成果であり、この場を借りて、感謝申し上げます。

犬童　寛子
（鹿児島大学大学院医歯学総合研究）

この度は、日本酸化ストレス学会 Young Investigator Awardにお選びいただき、大変嬉しく思っております。日本酸化ストレス学会会長の吉川敏一教授をはじめ、関係の先生方には心より感謝申し上げます。日本酸化ストレス学会に参加するようになってから早いものでちょうど10年が経ち、これまで私を支え、励まし、研究の進むべき方向を示してくださった馬嶋秀行教授にこの機会をお借りしまして、心より感謝を申し上げたいと思います。これを糧に今後もさらなる努力を重ね、邁進していきたいと思っております。ありがとうございました。

寄木　浩行
（京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学）

この度、はからずもこのような賞をいただき誠に光栄に感じております。吉川先生、内藤先生をはじめ御指導いただきました研究室の先生方、お世話になりました先生方に心より御礼申し上げます。医師になってから7年がたちましたが、研究の世界にはまだ足を踏み入れたばかりの私です。酸化ストレスについての知識もまだまだ不十分な中、第15回SFRR Internationalに参加し非常に良い経験をさせていただいたと感じておりましたところ、更にまだこのような賞をいただけるとは思いもよりませんでした。この受賞を励みに今後さらに努力していきたいと思いますので御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

福居　顕文
（京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学）

今秋11月17日～21日にフロリダで開催されました、第15回SFRR Internationalの「日本酸化ストレス学会　YIA」を受賞致しました。発表はポラプレジンクが熱ショックタンパク質(HSP)の発現誘導と酸化ストレス抑制作用によって、アスピリン起因性小腸粘膜障害を予防する可能性を示唆した内容です。初めての国際学会でのポスター発表で緊張しましたが、先輩のサポートも頂いて何とか無事終えることができました。発表の機会を与えて頂きました吉川敏一先生、内藤裕二先生、半田修先生を始め、諸先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。この栄誉に恥じないように引き続き研究に精進したいと考えておりますので、今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

安川　圭司
（九州大学大学院薬学研究院　機能分子解析学分野）

今回、日本酸化ストレス学会Young Investigator Awardという大変名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。日本酸化ストレス学会理事長　吉川敏一先生ならびに、関係の先生方に御礼申し上げます。この受賞は、私をこの酸化ストレス研究分野に導いてくださいました恩師の内海英雄先生をはじめとする九州大学の先生方、研究室の皆様のお陰であり、この場を借りて大変感謝申し上げます。本受賞を励みに、酸化ストレス研究分野の発展に少しでも貢献できるよう、益々研究に精進する所存でございますので、今後とも引き続きご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。

本会では、今後も、これまでの功績を称え、また、今後の活躍を期待し、各種賞の授与を行う予定です。自薦他薦を問いませんので、是非多くのご応募・ご推薦お待ちいたしております。奨励賞応募については、年次学術集会のご案内をご参照下さい。

SFRR Asia

2010年11月17日～21日、フロリダ　オーランド（USA）にて開催されました第15回国際フリーラジカル学会（SFRR International)において、下記4名がSFRR Asia のYIAを受賞されました。

SFRR Asia YIA 2010

安保　真裕
（東京大学大学院薬学系研究科薬品代謝化学教室）

この度、第15回SFRR InternationalにおいてSFRR Asia Young Investigator Award を受賞することができ、大変うれしく思います。今後、酸化ストレス研究において有用な蛍光プローブの開発を目指し、研究に邁進いたします。本研究を遂行するにあたり直接御指導いただいている東京大学大学院薬学系研究科の長野哲雄教授、および医学系研究科の浦野泰照教授にこの場を借りて感謝申し上げます。

兵藤 文紀
（九州大学先端融合医療レドックスナビ拠点）

この度、SFRR Asia部門の若手優秀発表賞という大変名誉ある賞をいただき、大変光栄に思うと同時に、この賞に恥じないよう今後とも酸化ストレス研究の活動に邁進して行きたく思っております。日本酸化ストレス学会理事長　吉川敏一先生ならびに、関係の先生方に御礼申し上げます。私の専門は磁気共鳴法を用いた生体レドックス画像解析に関する研究ですが、“酸化ストレス”をキーワードに多くの先生方との共同研究により少しでもこの研究分野の発展に寄与できればと思っております。最後になりましたが私をこの分野に導いて頂きました恩師の九州大学の内海英雄先生にこの場を借りて感謝申し上げます。

Informa Healthcare Young Investigator Award

吉冨　徹（筑波大学　学際物質科学研究センター）

この度は第15回SFRR Internationalに於いて、SFRR Asia Young Investigator Awardを頂き、大変光栄に存じます。日本酸化ストレス学会理事長　吉川敏一先生はじめ、関係者の先生方に心より御礼申し上げます。今後もこの表彰を励みとし、酸化ストレス研究の発展に貢献できるよう頑張りたいと存じます。またこれまで御指導を頂いております筑波大学数理物質科学研究科教授　長崎幸夫先生はじめ、筑波技術大学教授　平山暁先生、筑波大学医学部講師　松井裕史先生にこの場をお借りして感謝申し上げます。

Informa Healthcare Prestigious Poster Award

小出 裕一郎（東京大学大学院薬学系研究科）

11月にフロリダで開催されたSFRR InternationalにおいてSFRR Asia Young Investigator Award（Informa Healthcare Prestigious Poster Award）を受賞することができ、大変嬉しく思います。本学会では、国内外の様々な考え方を持った研究者と関わる機会があり、大変貴重な経験となりました。本研究は、東京大学大学院薬学系研究科薬品代謝化学教室教授の長野哲雄先生、同医学系研究科生体情報学教室教授の浦野泰照先生のご指導のもと行ったもので、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、日頃から様々なご助力を賜りました薬品代謝化学教室の教室員の皆様に深く感謝申し上げます。

◇◇◇ 関連学会　報告 ◇◇◇

SFRR-International Biennial Meeting and SFRBM's 17th Annual Meeting
Date:　November 17 - 21, 2010
Venue: Caribe Royale Hotel & Conference Center, Orlando, Florida USA

第15回Biennial SFRRI Meetingと第17回SFRBMのjoint Meeting 2010年11月17日から21日にかけて、標記学会が米国フロリダ州オーランドで開催された。各国から766名の参加者があり、日本からも約52名が参加した。会議のスタイルはほとんどSFRBMに則ったもので、早朝から始まるsunrise morning lectureから夕方のポスターセッションまで活気ある議論がなされた。近年の経済低迷を反映して、会議のホスピタリティーレベルの維持は厳しい状況におかれていたが、今回は合同会議の形をとったことと、両学会組織の予算獲得努力の成果もあって、高いホスピタリティーレベルを保つことに成功していたと思われる。一方、SFRRIの特色はほとんどみられず、少々残念な感じをもった。本会議中にSFRR Asiaのビジネスミーティングが行われたが、日本以外の出席者は中国と台湾からのみで、これも合同会議の形をとったことによってSFRRの色合いが薄れたマイナス面のひとつかと思われた。
今年はFRBM発刊25周年をむかえ、これを祝して本誌への貢献者による講演が17日に行われた。このスピーカーの一人にSFRR JAPANの二木鋭雄先生が選ばれて講演された。また、SRFFIの重要なイベントのひとつであるTraber Slater Awardも二木先生が受賞され、その講演が20日に行われた。このことはわれわれにとっても誇り高くうれしく思うとともに、国際的に認められる優れた研究をしなければならないと改めて思い直すでき事であった。SFRR Asia Young Investigator Awardは日本から4名、それ以外に日本酸化ストレス学会YIAとして5名が選出され受賞された。2012年ロンドンで行われるSFRRI会議では、われわれのsocietyからのさらなる貢献を期待したい。

同志社大学
野口範子　(SFRR Asia Representative)

◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

吉川敏一先生記念国際シンポジウム
International Symposium on Free Radical Research: Contribution to Medicine フリーラジカルと医学に関する国際会議
日　時:2011年1月20日(木)－22日(土)
会　場:京都ハイアットリージェンシーホテル
会　長:二木鋭雄(産総研・京都府立医大)
副会長:Matthew Grisham (LSU Health Sciences Center)
事務局長:内藤裕二(京都府立医大)
ホームページ:http://frcm2011.umin.jp/

5th Biennial Meeting of SFRR Asia (5th SFRR Asia)
日　時:2011年8月31日(水)から9月4日(日)(5日間予定)
会　場:鹿児島県鹿児島市内(鹿児島市民文化ホール)(予定)
会　長:馬嶋秀行(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
腫瘍学講座・宇宙環境医学講座教授)
〒890-8544　鹿児島市桜ヶ丘8−35−1
TEL　099-275-6270, 6272 FAX　099-275-6278
準備委員長:犬童寛子

6th Biennial Meeting of SFRR A+J (6th SFRR A+J)
日　時:2011年12月2日～4日
会　場:東京工科大学新施設(東京都蒲田)　予定
会　長:山本順寛(東京工科大学教授)
内藤裕二(京都府立医科大学准教授)

第28回臨床フリーラジカル会議
会　期:2012年1月20日(金)p.m.～21日(土)a.m.
会　場:烟河(けぶりかわ)　会議室　(京都府亀岡市)
〒621-0251　京都府亀岡市本梅町平松1-1
TEL　0771-26-2345　　http://www.keburikawa.com
当番世話人:吉川 敏一
問い合わせ先:臨床フリーラジカル会議　事務局
京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内
e-mail: ynaito@koto.kpu-m.ac.jp

◇◇◇ SFRR ASIA News ◇◇◇

Official Journal "Free Radical Research" 誌
会員特別価格での定期購読の受付を行いますので、詳細は事務局宛お問い合わせ下さい。

Special online subsription rate of 75 UK pounds per year (January 1 to December 31; individual basis, not institutional).
・Impact Factor　2007 Impact Factor: 2.925
(© Thomson ISI Citation Reports, 2008)
・Publication Frequency: 12 issues per year
・Subjects: Cell Biology; Molecular Biology
・Publisher: Informa Healthcare

※Journalの詳細につきましは、下記HPをご参照下さい。
http://www.informaworld.com/smpp/title~content=t713642632

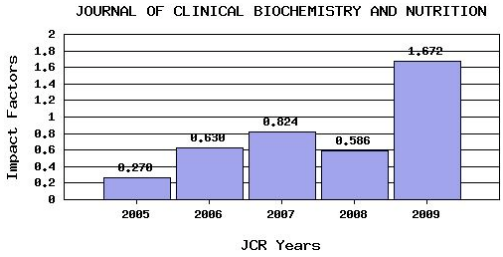
SFRR Japan(日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

詳細は、HPをご参照下さい。http://sfrrj.umin.jp/asia/
****
SFRR ASIA ,Secretariat
E-mail: sfrrasia@koto.kpu-m.ac.jp
****

JCBN(学会オフィシャルジャーナル)情報
(Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)

現在のImpact Factor : 1.672

オンラインによる投稿随時受付中！
下記HPよりお入り下さい。
http://sfrrj.umin.jp/JCBN.htm



◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

【会費納入のお願い】
理事・評議員　12,000円/年
一般会員　　7,000円/年
学生会員　　2,000円/年
賛助会員　100,000円/年　一口

・滞納が続きますと、退会処分となることがありますので、必ず会費を納めてくださいますようお願い申し上げます。
・年会費には、SFRR InternationalおよびAsiaの年会費が含まれてます。(Asia U$5, International US$7 計US$12)
・新入会をご希望の方がいらっしゃいましたら、事務局宛入会申込み要項をご請求下さい。入会申込用紙は、HPからもダウンロード可能です。

【会員情報　変更・追加等連絡のお願い】
会員情報変更などが行われてない為に、連絡先不明となることが多発しております。転居先不明などで連絡が取れない場合、学会情報などをお送りすることが出来ません。**必ず、変更手続きを事務局宛ご連絡下さいますよう、重ねてお願い申し上げます。**

【若手研究者奨励について】
本会では、若手研究者奨励のため、各種アワードを授与しております。
・学術奨励賞　年次学術集会演題募集要項をご参照下さい。
・関連国際学会における　Young Investigator Award
＊隔年で開催される下記会を中心に授与。
SFRR International Meeting　/　SFRR Asia Meeting
SFRR A+J　Meeting (AustralaisiaとのJoint Meeting)
開催の際にポスター発表を行う日本酸化ストレス学会学会員の中から優秀な発表に対して授与するものである。
＊特に応募は不要とし、発表演題の中より選出される。
＊総数は該当演題数ならびに内容により、2件～5件程度。

いずれも、賞状ならびに副賞が授与されます。是非多くのご応募をお待ちしております。

♪♪♪